

令和 2 年度農作物有害動植物発生予察情報 発生予報第 7 号（10 月）

令和 2 年 9 月 30 日
山形県病虫害防除所

[概 要]

園芸作物：りんご、日本なしの黒星病の伝染源密度低減を図るため、収穫終了後に薬剤防除を行ってください。また、落葉した発病葉は翌年の伝染源となるため、集めて適切に処分する等、耕種的対策、物理的対策を組み合わせ、総合的に防除を実施してください。

もものせん孔細菌病の伝染源密度低減のため、収穫後防除を徹底してください。台風等の強風雨により落葉痕からの感染が多くなるため、降雨前に薬剤防除を実施してください。

野菜共通害虫のハスモンヨトウの発生量が多い予報です。圃場をよく見回り早期発見に努め、若齢幼虫期に防除を行ってください。

予報内容一覧

作物名	病虫害名	発生量
りんご	黒星病	—
もも	せん孔細菌病	—
日本なし	黒星病	—
果樹共通害虫	コスカシバ（もも・おうとう）	平年並
秋冬ねぎ	黒斑病	—
	葉枯病	平年並
	シロイチモジヨトウ	—
野菜共通害虫	ヨトウガ（秋冬ねぎ・秋冬だいこん）	—
	ハスモンヨトウ（秋冬ねぎ・秋冬だいこん）	多 い
	オオタバコガ（秋冬ねぎ・秋冬だいこん）	—

山形県病虫害防除所	本 所	TEL 023-644-4241	FAX 023-644-4746
	庄内支所	TEL 0235-78-3115	FAX 0235-64-2382
山形県病虫害防除所トップページ	http://agrin.jp/menu/t/790/		
病虫害発生予察情報	http://agrin.jp/menu/t/563/		

1. 農薬の使用に当たっては、登録内容（農薬使用基準）を遵守するとともに、隣接地や周辺作物へ飛散しないよう十分留意する。また、使用後は防除日誌の記帳に努める。
2. 合成ピレスロイド剤等を使用する場合は、市町村農作物有害動植物防除協議会等で定めた地区に限って使用し、蚕・魚類に対する被害を防止する。
3. 農薬の空容器、空袋等の処理は、廃棄物処理業者に処理を委託する等により適切に行う。

予報根拠中の記号 (+)：発生量を多くする要因 (-)：発生量を少なくする要因

I 園芸作物

1. りんご

(1) 黒星病

園内の伝染源密度低減を図るため、収穫が終了した品種から直ちに薬剤防除を行う。なお、収穫終了後に防除が実施できない園では、10月中旬頃に薬剤防除を行う。また、落葉した発病葉は翌年の伝染源となるため、収穫終了後から翌春の展葉期までに落葉を回収し処分する等、耕種的対策もあわせて実施する。

2. もも

(1) せん孔細菌病

< 9月30日付け発生速報第14号発表 >

9月29日現在の発生量が多い。翌年の伝染源密度低減を図るため、以下の対策を徹底する。

- ア. 収穫後、できるだけ早く無機銅剤を2週間おきに2～3回散布する。
- イ. 薬剤散布に当たっては、枝先まで薬液が十分にかかるようにいねいに実施する。
- ウ. 台風等の強風雨により落葉痕からの感染が多くなるため、降雨前に薬剤防除を行う。
- エ. 例年発生が見られる園や風当たりの強い園では、感染を防止するため、防風ネットを設置する。

3. 日本なし

(1) 黒星病

翌年の伝染源となるりん片への感染を防止するため、収穫直後から落葉期までに1～2回薬剤防除を行う。また、落葉した発病葉は翌年の伝染源となるため、集めて適切に処分する。

4. 果樹共通害虫

病虫害名	対象作物名	予報内容
		発生量
(1) コスカシバ	もも・おうとう	平年並

1) 予報の根拠

9月29日現在の発生量は平年並である。

2) 防除上注意すべき事項

- ア. 細かな虫糞の混じったヤニが出ている枝幹部食入痕の周辺を、木槌か金槌で軽くたたいて樹皮下の幼虫を圧殺する。
- イ. 落葉後直ちに枝幹部に薬剤散布を行い、樹皮下の浅い部分に食入している若齢幼虫を防除する。なお、落葉前にも使用できる薬剤を散布する場合は、葉に薬液がかからないよう注意する。
- ウ. 枝幹の樹皮が裂けている場合や樹勢が低下している樹では、特に被害を受けやすいので防除を徹底する。
- エ. 若木や幼木では、こぶ状に盛り上がった接木部が被害を受けやすいので、この部位にも薬液が十分にかかるようていねいに散布する。

5. 秋冬ねぎ

(1) 黒斑病

9月29日現在の発生量は少ないが、降雨が続くと発生が多くなるので、雨の合間を見て防除を行う。また、残さや被害株は翌年の伝染源となるため、圃場外に搬出して適切に処分する。

病虫害名	予報内容
	発生量
(2) 葉枯病	平年並

1) 予報の根拠

ア. 9月29日現在の発生量は平年並で、一部では中心葉に黄色斑紋病斑が見られている。

イ. 向こう1か月の天候は、気温が高く、降水量は少ないと予報されている。(一)

2) 防除上注意すべき事項

- ア. 降雨が続くと中心葉に黄色斑紋病斑が発生するので、雨の合間を見て防除を行う。なお、薬液が株全体に十分付着するようていねいに散布する。
- イ. 残さや被害株は翌年の伝染源となるため、圃場外に搬出して適切に処分する。

(3) シロイチモジヨトウ

9月29日現在の発生量は平年並である。今後、前線や低気圧の通過に伴い多飛来することがあるので、圃場をよく見回り早期発見に努める。なお、薬剤防除を行う場合は、被害発生初期（先端部が白く透けた時）に散布する。

6. 園芸作物共通害虫

(1) ヨトウガ (秋冬ねぎ・秋冬だいこん)

9月29日現在の発生量は平年並である。圃場をよく見回り早期発見に努め、薬剤防除を行う場合は、幼虫の齢期が進むにつれ薬剤の効果が低下するため、若齢幼虫期に散布する。

病虫害名	対象作物名	予報内容
		発生量
(2) ハスモンヨトウ	秋冬ねぎ ・秋冬だいこん	多い

< 8月26日付け発生速報第13号発表 >

1) 予報の根拠

- ア. 9月後半の巡回調査の結果、秋冬ねぎでは幼虫による被害が広く確認され、発生量は多い。(+)
- イ. 9月5半旬までのフェロモントラップにおける誘殺数は、県予察圃場(山形市)、地区予察圃場(鶴岡市)ともに多い。(+)
- ウ. 向こう1か月の気温は、高いと予報されている。(+)

2) 防除上注意すべき事項

- ア. 本種は野菜、花き等多くの作物を加害するので、圃場をよく見回り早期発見に努め、卵塊やふ化直後の幼虫の集団が見られる葉は取り除き、適切に処分する。
- イ. 前線や低気圧の通過に伴い多飛来することがあるので発生動向に注意する。
- ウ. 薬剤防除を行う場合は、幼虫の齢期が進むにつれ防除効果が低下するため、若齢幼虫期に散布する。

(3) オオタバコガ (秋冬ねぎ・秋冬だいこん)

9月29日現在の発生量は平年並である。今後、前線や低気圧の通過に伴い多飛来することがあるので、圃場をよく見回り早期発見に努める。なお、本種は野菜、花き等の多くの作物を加害するので十分注意する。

[発生予察情報で使用される時期、量の表現の基準]

1. 時期

平 年 並	平年値（過去10か年の平均）を中心として前後2日以内
やや早い	平年値より3～5日早い
ややおそい	平年値より3～5日おそい
早 い	平年値より6日以上早い
お そ い	平年値より6日以上おそい

2. 量（発生量、発生面積及び被害量等）

過去10年間の値を、発生が多い順に下図のように並べ、本年の値との比較により求めます。

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
←多い→	← やや多い →	← 平 年 並 →				← やや少ない →	←少ない→		

東北地方 1か月予報

(9月26日から10月25日までの天候見通し)

令和2年9月24日
仙台管区气象台 発表

<予想される向こう1か月の天候>

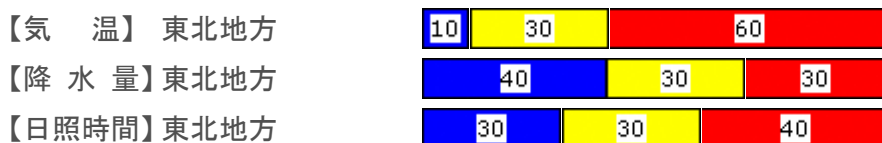
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

天気は数日の周期で変わるでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率60%です。

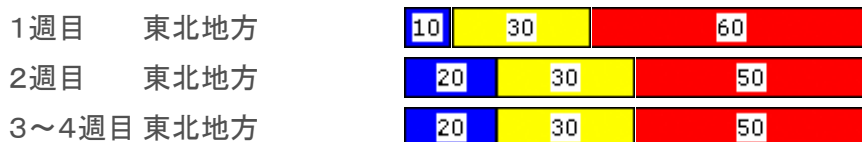
週別の気温は、1週目は、高い確率60%です。2週目は、高い確率50%です。3～4週目は、高い確率50%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

<気温経過の各階級の確率(%)>



凡例: ■ 低い ■ 平年並 ■ 高い

<予報の対象期間>

- 1か月 : 9月26日(土)～10月25日(日)
1週目 : 9月26日(土)～10月 2日(金)
2週目 : 10月 3日(土)～10月 9日(金)
3～4週目 : 10月10日(土)～10月23日(金)